



序

神戸大学体育会幹事長 元 永 信 夫

神戸大学体育会は昨年創立十周年を迎えたのであるが、その間の集大成として、又昨年度個別の問題点を論ずるものとして会誌「六甲」が創刊された。その中では実に数多くの問題点が浮き彫りにされた。具体的な例をあげるならば、財政問題・施設問題等であるが、それらは正に体育会自体がもつ組織的な弱さとして総括されるように思われる。特に、財政問題に關してはその資金不足は覆うべくもなく、数年来その根本的改革が叫ばれていたのである。

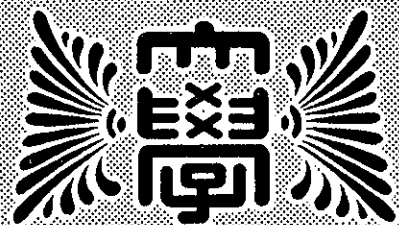
体育会が、体育会ビジョン―本学運動活動のみに止まらず、全神大人の体育活動の促進・発展に寄与する事を目的とする―に銘記された方向性を更に追求せんとする時、我々はそこに体育会費―新入生より集めた資金を種々の活動を通じて還元する事を骨子とする―による運営という道しか残されていない事を確認した。

実際問題として、我々は事情が許せば本年度より実施したいと思っている。

体育会費徴収に伴う一般会員の加入、更に教職員の入会まで実現された時、初めて体育会は真に全学的組織として数々の問題を克服して行けるのではないだろうか。

「六甲」第二号は、その契機とせんが為に発刊されたものであって、これからの体育会の方向性は第二号に表わされていると自負している。これを元に、これからの体育会を共に考えていってもらいたい。

六甲



1972

vol. 2 神戸大学体育会